

■ 基準価額・純資産総額の設定来推移



※1 分配金再投資ベースは分配金(課税前)を再投資したものと計算しており、分配金があった場合は実際の基準価額とは異なります。

また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに値は異なります。

※2 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

■ 設定来の運用実績

	基準価額 (分配金再投資)	
	(円)	騰落率(%)
当月末	11,023	-
過去1ヵ月	10,649	3.51
過去3ヵ月	10,037	9.82
過去6ヵ月	-	-
過去1年	-	-
過去3年	-	-
設定日来	10,000	10.23

※1 基準価額騰落率(分配金再投資)は、当ファンドの決算時に収益の分配金があった場合に、その分配金(課税前)を再投資した場合の騰落率です。また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに騰落率は異なります。

※2 基準価額騰落率は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

■ 運用資産構成比率

マザーファンド	比率(%)
外国株式	98.3
現物	98.3
先物	-
短期資産等	1.7
合計	100.0

※1 比率は純資産総額対比です。

※2 短期資産等には、コール、CD、CP、現先、未収金、未払金等が含まれます。

■ 分配実績

決算年月日	分配金 (課税前) (円)
-	-
-	-
-	-
-	-
-	-
-	-
設定来合計	-

※ 1万口当たりの実績です。

■ 基準価額と純資産総額

	当月末	前月末	前月末比
基準価額 (円)	11,023	10,649	+374
純資産総額 (百万円)	119	82	+37

※ 月中に分配があった場合の基準日の基準価額は、分配金込みです。

	基準価額 (円)	日付
設定来高値	11,058	2017年12月28日
設定来安値	9,504	2017年8月21日

※1 基準価額は信託報酬等控除後で算出されます。

※2 設定来高値及び設定来安値は分配落ち後の基準価額で、該当した日付が複数日ある場合には、その初日を表示しております。

■ 運用概況

当月末の基準価額は、11,023円(前月比+374円)となりました。
また、税引き前分配金を再投資した場合の月間騰落率は+3.51%となりました。

<運用コメント>

■ 12月の市場動向と運用状況

当月のパフォーマンス



※ 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

レポート対象期間(11/29~12/28)における米国株式指数(米ドル建)は上昇しました。上旬は米国上院にて税制改革法案が可決されたこと、中旬は下院においても大筋合意に達したことが報じられ、さらに税制改革法案が公表されたこと等が好感されて上昇しました。また、堅調な米国経済指標も上昇を牽引しました。下旬は年末年始の連休を前に薄商いとなり、方向感の定まらない展開となりました。

かかる環境下、当ファンドの円換算後リターンは+3.5%(為替ドル安要因+0.8%、株価要因+2.7%)となりました。

本ファンドは、①付加価値の高い産業において、②競争上有利な状況にあり、③長期的な潮流にのっている会社に厳選して長期投資を行っており、現在のポートフォリオ企業は27社です。

本ファンドの助言者である農林中金バリューストメンツでは、投資先のモニタリングや、新規投資候補先の調査のため、年間6回程度、現地訪問を行っています。毎年の訪問社数は、80社程度にのぼります。

直近では、昨年12月にテキサス州ダラス・ヒューストン、ジョージア州アトランタ等の米国南部地域に出張し、既往投資先2社、新規投資候補先9社への訪問を行いました。今回は、訪問した企業の一つである米国キンバリー・クラーク社が扱っている「紙オムツ」を例に、「産業の付加価値」を規定する要素の一つである「財の性質」という考え方について、その一端をご紹介します。

キンバリー・クラーク社は1872年創業の紙を原材料とする日用品に強みを有するグローバルカンパニーです。世界初のティッシュペーパーである「クリネックス」ブランドは日本でも広く知られています(国内では日本製紙クレシア社が製造・販売しています)。同社の2016年度の売上のうち約半分(約9,000億円)が紙オムツや生理用品であり、中でも「子供用」オムツが高い構成比を占めています。

紙オムツは、大きく「子供用」と「大人用」の2つに分けることができます。今回はこの2つの違いについて考えてみたいと思います。

「大人用」でも「子供用」でも、不織布と吸収材で構成される基本的な構造は同じです。顧客が紙オムツに求めるものについても、吸水性と吸湿性、すなわち「漏れないこと」と「蒸れないこと」でやはり変わりません。紙オムツは消耗品であり、使用期間を通じて、1日あたり数枚ずつ消費されます。

しかし、マーケティングの観点からそれぞれの使用者を考えると、両者では大きく異なります。使用者層の年齢の違いはもとより、最も大きな違いは、「使用期間」と「購買意志決定者」にあると考えられます。

「子供用」の場合、出産と同時に使用されはじめ、子供の成長に伴う「オムツ離れ」によって使用されなくなります。結果として、ターゲットとしている顧客が3年程度(個人差があります)で卒業してしまいます。すなわち、常に顧客が入れ替わる市場であり、特定の顧客からブランド・ロイヤリティを獲得し続けるということではできません。加えて、「子供用」オムツを購入するのは、保護者(両親、祖父母等)です。実際の使用感を赤ちゃんはコメントできませんので、一定の品質が担保される前提であれば、どちらかという「価格」が重要な購買要因となります。

一方で、「大人用」の場合は、一度使用されると10年スパンで使用されますが、先進諸国においても普及率はまだまだ低く、現在は認知度を上げていく段階といえそうです。主に使用者本人が購買決定者ですので、多少の価格差よりも「使用感」が重要な要素となります。

	子供用オムツ	大人用オムツ
効用	吸水性、吸湿性	吸水性、吸湿性
使用者	赤ちゃん 3年程度で入れ替わり	シニア層 10年程度
購買決定者	保護者	(主に)使用者本人
ブランド・ロイヤリティ	持続しにくい	持続しやすい

このように、紙オムツと一口に言っても、「大人用」と「子供用」では違いがあり、結果としてメーカーのビジネスモデルも大きく異なってくることとなります。すなわち、「子供用」の場合は、いち早く市場シェアを押さえることで規模の経済を獲得し、競合他社よりも安く作ることが付加価値の源泉となります。一方、「大人用」の場合は、肌触りなどの使用感を高めブランド・ロイヤリティを獲得することで他社よりも高い価格で売るといった戦略を取り得ます。

本ファンドは長期的に価値を増大させることの出来る企業を見極め、慎重に価値を評価し、保有し続ける投資手法を通じて、顧客資産の持続的な増大を実現することを目的としています。そのためには、グローバルな視座による、企業間の競争環境の変化や長期的な潮流に加え、扱っている財(製品・サービス)の性質についての本質的な理解が重要であり、今後とも継続的に現地訪問を行い、企業からの生の情報に接することに努めていきたいと考えています。

※運用担当者のコメントは12月末時点のものであり、将来の市場環境の変動、正確性等を保証するものではありません。

<マザーファンドの運用状況>

■ 組入上位10銘柄

順位	銘柄名	業種	組入比率(%)
1	VISA INC-CLASS A SHARES	金融	7.0
2	THE WALT DISNEY CO.	一般消費財・サービス	7.0
3	COLGATE-PALMOLIVE CO	生活必需品	6.9
4	BECTON DICKINSON & CO	ヘルスケア	6.8
5	UNITED TECHNOLOGIES CORP	資本財・サービス	6.2
6	3M CO	資本財・サービス	6.0
7	VERISK ANALYTICS INC	資本財・サービス	4.1
8	TIFFANY & CO	一般消費財・サービス	4.0
9	ECOLAB INC	素材	3.9
10	SHERWIN-WILLIAMS CO/THE	素材	3.8

※ 比率は外国株式現物対比です。

組入銘柄総数： 27銘柄

■ 業種別組入比率

業種	ファンド(%)
資本財・サービス	26.1
生活必需品	18.0
素材	16.3
一般消費財・サービス	14.7
ヘルスケア	11.0
金融	7.0
情報技術	6.9
合計	100.0

※ 比率は外国株式現物対比です。

商品の特色

- 圧倒的な競争力を有する企業への長期厳選投資により投資信託財産の中長期的成長を目指すアクティブファンドです。
- 米国の上場株式を主要投資対象とします。
- 徹底したファンダメンタル・ボトムアップアプローチにより、付加価値の高い産業、圧倒的な競争優位性、長期的な潮流の3つの条件を満たす、持続可能なキャッシュ・フロー創出能力を有する「構造的に強靱な企業」を見出し、当該企業の本源的価格を算出して適切なバリュエーションレベルで長期厳選投資を行います。
- 組入外貨建資産については、原則として為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは行いません。
- 農林中金バリューインベストメンツ株式会社(NVIC)より投資助言を受け、ポートフォリオを構築します。
- 当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。

■ お申込みメモ

購入単位	＜通常の申込＞ 販売会社が定める単位 ＜確定拠出年金制度に基づく申込＞ 1円以上1円単位
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
購入代金	販売会社の指定する日までにお支払いください。
換金単位	1口単位
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して5営業日目から支払いを行います。
申込締切時間	原則として午後3時までとなります。(ただし、受付時間は販売会社により異なる場合がありますので、詳細につきましては販売会社までお問い合わせください。)
申込受付不可日	ニューヨーク証券取引所の休曜日またはニューヨークの銀行の休業日には、購入・換金の申込受付を行いません。(詳しくは、販売会社または委託会社にお問い合わせください。)
換金制限	信託財産の資産管理を円滑に行うために大口の換金には制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止等により購入・換金の申込受付が中止または取消しとなることがあります。
信託期間	無期限(設定日:平成29年7月5日)
繰上償還	受益権の総口数が5億口を下回った場合などには、繰上償還となる場合があります。
決算日	毎年6月20日(休業日の場合は翌営業日。ただし、第1期は平成30年6月20日。)
収益分配	毎年6月の決算時に分配を行います。販売会社との契約によっては、税引き後、無手数料で再投資が可能です。
信託金の限度額	1兆円を限度とします。
公告	委託会社が投資者(受益者)に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。
運用報告書	毎年6月の決算時及び償還後に交付運用報告書を作成し、販売会社より知れている投資者(受益者)に対して交付します。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。なお、税制が改正された場合等には変更される場合があります。

金融商品取引所や外国金融商品市場における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときには、ご購入申込みもしくはご換金申込みの受け付けを中止すること、およびすでに受け付けたご購入申込みもしくはご換金申込みを取り消す場合があります。

■ 委託会社、その他の関係法人

- 委託会社 : 農林中金全共連アセットマネジメント株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第372号
一般社団法人 投資信託協会会員/一般社団法人 日本投資顧問業協会会員)
信託財産の運用指図、目論見書および運用報告書の作成等を行います。
- 受託会社 : 農中信託銀行株式会社
追加信託に係る振替機関への通知等、信託財産の保管・管理・計算等を行います。
- 販売会社 : 以下をご覧ください。
ファンドの募集の取扱い・販売、目論見書・運用報告書の交付、一部解約の請求の受付、収益分配金、償還金および一部解約金の支払い等を行います。

販売会社等につきましては、以下の照会先までお問い合わせください。

■ 農林中金全共連アセットマネジメント株式会社

ホームページ : <http://www.ja-asset.co.jp/>

フリーダイヤル : 0120-439-244(受付時間:営業日の午前9時～午後5時)

お申込、投資信託説明書(交付目論見書)のご提供は

主なリスクと手数料

下記の事項は、この投資信託（以下、「当ファンド」という。）をお申込みされる投資家の皆様にあらかじめ、ご確認いただきたい重要な事項としてお知らせするものです。

お申し込みの際には、下記の事項および投資信託説明書（交付目論見書）の内容をよくお読みください。

■ 当ファンドに係るリスクについて

当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて実質的に株式など値動きのある証券（外貨建証券は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、投資者（受益者）の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。

ファンドの運用による損益は、すべて投資者（受益者）の皆様に帰属します。

投資信託は、預貯金と異なります。

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「株価変動リスク」「為替変動リスク」などがあります。

※詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）の「投資リスク」をご覧ください。

■ 当ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用	
購入時手数料	<p><通常の申込> 購入申込受付日の翌営業日の基準価額に、販売会社が個別に定める手数料率を乗じた額です。 ご購入時の手数料率の上限は2.16%（税抜2.0%）です。</p> <p><確定拠出年金制度に基づく申込> 無手数料</p>
信託財産留保額	ありません。
投資者が信託財産で間接的に負担する費用	
運用管理費用（信託報酬）	毎日、純資産総額に年0.972%（税抜0.9%）を乗じた額を計上します。毎計算期間の最初の6ヵ月終了日及び毎計算期間末または信託終了のとき信託財産中から支払われます。
その他の費用・手数料	<p>監査費用は、毎日、純資産総額に年0.00324%（税抜0.003%）を乗じた額を計上します。 毎計算期間末または信託終了のとき信託財産中から支払われます。</p> <p>有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等は、その都度信託財産中から支払われます。</p> <p>※運用状況により変動するため、事前に料率、上限額等を表示することができません。</p>

※ファンドの費用の合計額は、投資者の皆様がファンドを保有する期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※ご購入の際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

留意事項

- 当資料は、農林中金全共連アセットマネジメント株式会社（以下、「当社」といいます。）が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料は当社が信頼できると判断したデータ等により作成しましたが、その正確性、完全性等を保証するものではなく、また事前の通知なしに内容を変更する場合があります。市場環境等の見直しにつきましても、その確実性を保証するものではありません。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。
- 当ファンドは、株式などの値動きの生じる証券（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資しますので、基準価額は日々変動します。したがって、元金および収益分配が保証されるものではなく、投資元本を割り込むことがあります。また、運用の成果は運用の実績により変動します。投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客様に負っていただくこととなります。
- 投資信託は預貯金や保険商品とは異なり、預金（貯金）保険機構、保険契約者保護機構の保護対象ではありません。投資信託のお申込みに関しては、クーリングオフの適用はありません。
- ご購入の際は、販売会社より投資信託説明書（交付目論見書）をお渡しますので、必ずお受取りいただき、詳細をご確認のうえ、ご自身でご判断いただきますようお願いいたします。